

協奏曲

ショパン

少年が駆けてゆく

膝を抱えて草原の上に
軽い風のようなピアノを浮かべ
涼しい姿を追いかける午前

少年は駆けてゆく

染まり始めた葉を透かして
淡いひかりがうつむいている
ひんやりした空気に左腕をさする

幹にもたれかかっている・・・

そっと寄り添ったままの静けさに
囁きかける細流のつづやきも
風景の遥か彼方をかすかに流れる

肩に感じる温もりに心はやわらぎ
抒情の切なさは旋律となり

一枚の枯葉をふと、ひらりと空へ滑らせる

少年がふいにはじけるように駆け出す

全てを静かに包み込む季節の向こうに
心地良い風のようなピアノを浮かべ
楽しげな姿を追いかける午前

さあ・・・、行こう

(1984.11.3)